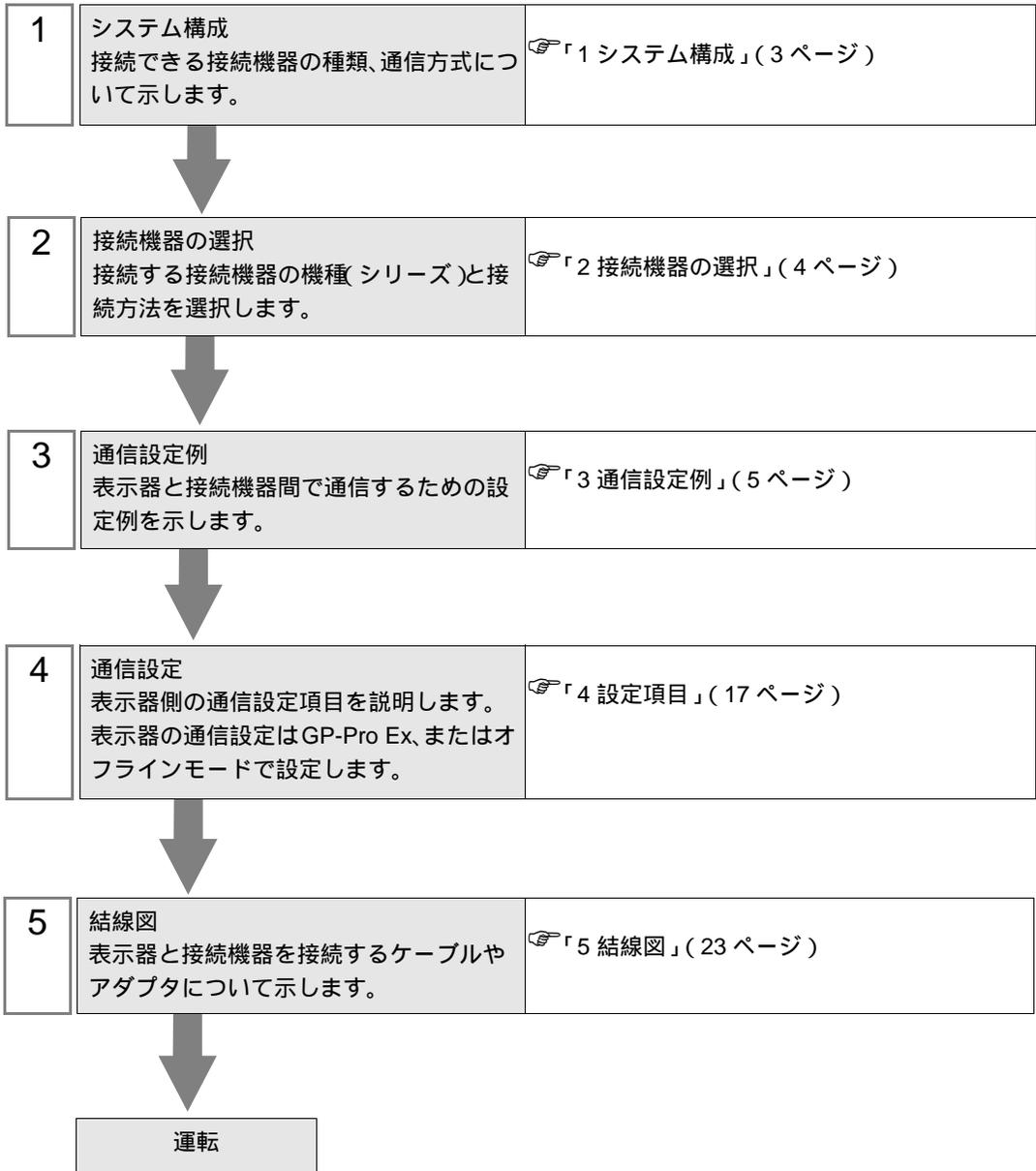


パソコンリンク SIO ドライバ

1	システム構成.....	3
2	接続機器の選択.....	4
3	通信設定例.....	5
4	設定項目.....	17
5	結線図.....	23
6	使用可能デバイス.....	35
7	デバイスコードとアドレスコード.....	37
8	エラーメッセージ.....	40

はじめに

本書は表示器（GP3000 シリーズ）と接続機器（対象 PLC）を接続する方法について説明します。
 本書では接続方法を以下の順に説明します。



1 システム構成

表示器と横河電機（株）製接続機器を接続する場合のシステム構成を示します。

重要

- CPU 直結とパソコンリンクモジュールを使用して、同時に 2 台以上の表示器を接続することはできません。

1.1 CPU 直結

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
FA-M3	F3SP21-0N F3SP25-2N F3SP28-3N F3SP35-5N F3SP38-6N F3SP53-4H F3SP58-6H F3SP28-3S F3SP38-6S F3SP53-4S F3SP58-6S F3SP59-7S	CPU 上の PROGRAMMER ポート	RS232C	設定例 1 (5 ページ)	結線図 1 (23 ページ)

1.2 パソコンリンクモジュール

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
FA-M3	F3SP25-2N F3SP28-3N F3SP35-5N F3SP38-6N F3SP53-4H F3SP58-6H F3SP28-3S F3SP38-6S F3SP53-4S F3SP58-6S F3SP59-7S	F3LC11-1N、F3LC11-1F、 F3LC12-1F 上の RS232C ポー ト	RS232C	設定例 4 (14 ページ)	結線図 3 (29 ページ)
		F3LC11-2N 上の RS422/ 485(4Wire) ポート	RS422/485	設定例 3 (11 ページ)	結線図 2 (24 ページ)
		F3LC11-2N 上の RS422/ 485(2Wire) ポート	RS422/485	設定例 2 (8 ページ)	結線図 4 (30 ページ)

接続構成

- 1 : 1 接続

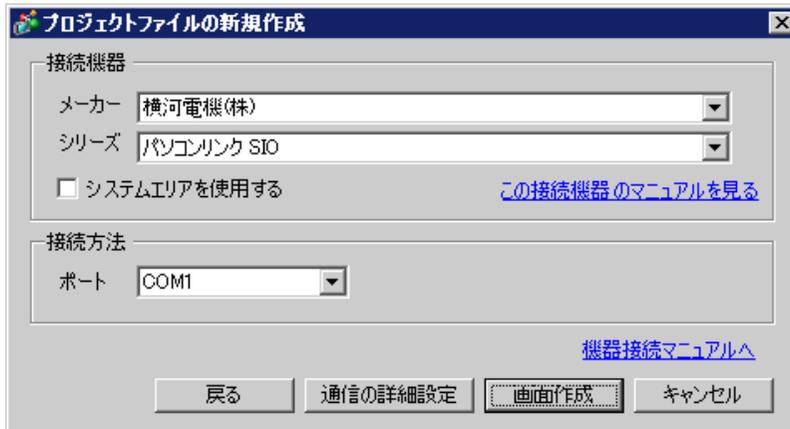


- 1 : n 接続



2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。



設定項目	設定内容
メーカー	接続する接続機器のメーカーを選択します。「横河電機(株)」を選択します。
シリーズ	接続する接続機器の機種（シリーズ）と接続方法を選択します。「パソコンリンク SIO」を選択します。「パソコンリンク SIO」で接続できる接続機器はシステム構成で確認してください。 ☞「1 システム構成」(3 ページ)
システムエリアを使用する	表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス（メモリ）を同期させる場合にチェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切り替えたりウィンドウを表示させることができます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」 この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「6.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド [本体設定] の設定ガイド システムエリア設定」 参照：GP3000 シリーズユーザーズマニュアル「4.3.6 システムエリア設定」
ポート	接続機器と接続する表示器のポートを選択します。

3 通信設定例

(株) デジタルが推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

3.1 設定例 1

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

拡張モード

サムチェック

終端文字

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定

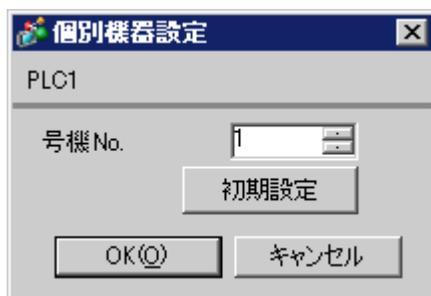
接続可能台数 16台

No.	機器名	設定
1	PLC1	号機No.=1

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から  をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



接続機器の設定

ラダーツールの[プロジェクト]メニューから[コンフィギュレーション]を実行し、下記のように設定します。ラダーツールの詳細に関しては接続機器メーカーのマニュアルをご参照ください。

設定項目	設定
伝送速度	19200
データ長	8
パリティ	無し
ストップビット	1
チェックサム	無し
終端文字	有り
プロテクト	無し

3.2 設定例 2

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

拡張モード

サムチェック

終端文字

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定

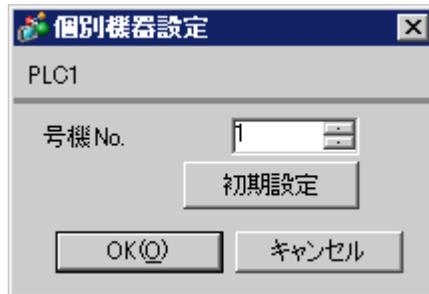
接続可能台数 16台

No.	機器名	設定
1	PLC1	号機No.=1

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から  をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



接続機器の設定

コンピュータリンクモジュールを下記のように設定します。詳細に関しては接続機器メーカーのマニュアルをご参照ください。

伝送速度設定スイッチ

設定項目	設定
伝送速度	19200

データ形式設定スイッチ

ディップ スイッチ	設定	設定内容
SW1	ON	データ長
SW2	OFF	パリティビット
SW3	OFF	-
SW4	OFF	ストップビット
SW5	OFF	チェックサム
SW6	ON	終端文字
SW7	OFF	プロテクト
SW8	OFF	常にOFF

ステーション番号設定スイッチ

設定項目	設定
号機 No.	1号機

- MEMO** ・ 接続の終端になるモジュールのみ終端抵抗スイッチを 2-WIRE に設定します。それ以外は OFF にします。

3.3 設定例 3

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

拡張モード

サムチェック

終端文字

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定

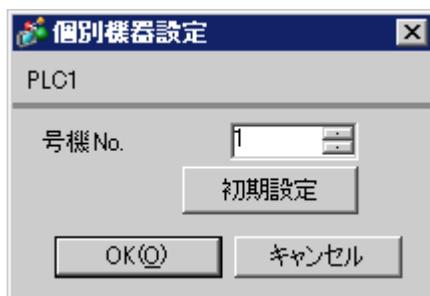
接続可能台数 16台

No.	機器名	設定
1	PLC1	号機No.=1

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から  をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



接続機器の設定

コンピュータリンクモジュールを下記のように設定します。詳細に関しては接続機器メーカーのマニュアルをご参照ください。

伝送速度設定スイッチ

設定項目	設定
伝送速度	19200

データ形式設定スイッチ

ディップ スイッチ	設定	設定内容
SW1	ON	データ長
SW2	OFF	パリティビット
SW3	OFF	-
SW4	OFF	ストップビット
SW5	OFF	チェックサム
SW6	ON	終端文字
SW7	OFF	プロテクト
SW8	OFF	常にOFF

ステーション番号設定スイッチ

設定項目	設定
号機 No.	1号機

- MEMO** ・ 接続の終端になるモジュールのみ終端抵抗スイッチを 4-WIRE に設定します。それ以外は OFF にします。

3.4 設定例 4

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

拡張モード

サムチェック

終端文字

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定

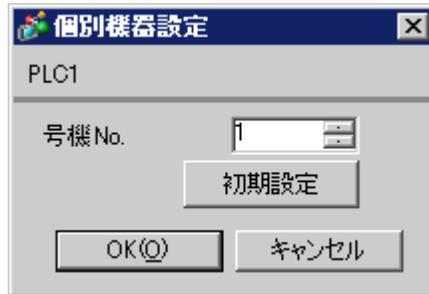
接続可能台数 16台

No.	機器名	設定
1	PLC1	号機No=1

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から  をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



接続機器の設定

コンピュータリンクモジュールを下記のように設定します。詳細に関しては接続機器メーカーのマニュアルをご参照ください。

伝送速度設定スイッチ

設定項目	設定
伝送速度	19200

データ形式設定スイッチ

ディップ スイッチ	設定	設定内容
SW1	ON	データ長
SW2	OFF	パリティビット
SW3	OFF	-
SW4	OFF	ストップビット
SW5	OFF	チェックサム
SW6	ON	終端文字
SW7	OFF	プロテクト
SW8	OFF	常にOFF

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。
各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

☞ 「3 通信設定例」(5 ページ)

4.1 GP-Pro EX の通信設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1 ~ 127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ~ 255」で入力します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ~ 255」で入力します。
サムチェック (拡張モード)	サムチェックを行うかどうかを設定します。
終端文字 (拡張モード)	データの終端文字指定を行うかどうかを設定します。
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

[接続可能台数] が複数の場合は [接続機器設定] の [機器別設定] から  をクリックすることで、設定できる接続機器を増やすことができます。



設定項目	設定内容
号機 No.	通信を行う接続機器の局番を「0 ~ 32」で入力します。

4.2 オフラインモードの通信設定

MEMO ・ オフラインモードへの入り方や操作方法は GP3000 シリーズユーザーズマニュアルを参照してください。

参照 : GP3000 シリーズユーザーズマニュアル「4章 設定」

通信設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの[周辺機器設定]から[接続機器設定]をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
パソコンリンク SIO		[COM1]	Page 1/1	
通信方式	RS232C			
通信速度	19200			
データ長	<input type="radio"/> 7 <input checked="" type="radio"/> 8			
パリティ	<input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> 偶数 <input type="radio"/> 奇数			
ストップビット	<input checked="" type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2			
フロー制御	ER(DTR/CTS)			
タイムアウト(sec)	3			
リトライ	2			
送信ウェイト(ms)	0			
チェックサム	<input checked="" type="radio"/> OFF <input type="radio"/> ON			
終端文字	<input type="radio"/> OFF <input checked="" type="radio"/> ON			
終了		戻る		2005/09/02 12:49:19

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (sec) を「1 ~ 127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ~ 255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ~ 255」で入力します。
チェックサム	チェックサムを行うかどうかを設定します。
終端文字	データの終端文字指定を行うかどうかを設定します。

機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定] をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
パソコンリンク SIO		[COM1]	Page 1/1	
接続機器名	[PLC1]			
号機No.	[1]			
	終了	戻る	2005/09/02 12:49:20	

設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
号機 No.	通信を行う接続機器の局番を「0 ~ 32」で入力します。

オプション

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[オプション] をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
パソコンリンク SIO		[COM1]	Page 1/1	
RI / VCC <input checked="" type="radio"/> RI <input type="radio"/> VCC RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。				
終了		戻る		2005/09/02 12:49:22

設定項目	設定内容
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。

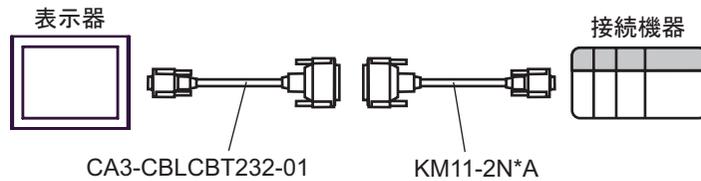
5 結線図

以下に示す結線図と横河電機（株）が推奨する結線図が異なる場合がありますが、本書に示す結線図でも動作上問題ありません。

- 接続機器本体の FG 端子は D 種接地を行ってください。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。
- 表示器内部で SG と FG は接続されています。接続機器と SG を接続する場合は短絡ループが形成されないようにシステムを設計してください。

表示機 (接続ポート)	ケーブル	備考
GP (COM1)	デジタル製 RS232C 変換ケーブル CA3-CBLCBT232-01 + 横河電機(株)製：プログラミングツール用 ケーブル KM11-2N*A	ケーブル長は 15m 以内にして ください。

結線図 1



結線図 2

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2)	A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	—
	B	自作ケーブル	
GP ¹ (COM2)	C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	
	D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	

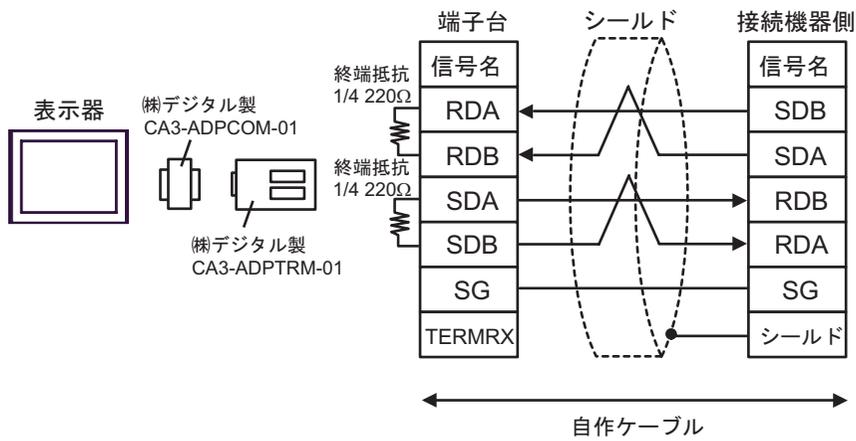
1 AGP-3002B 除く全 GP 機種

MEMO

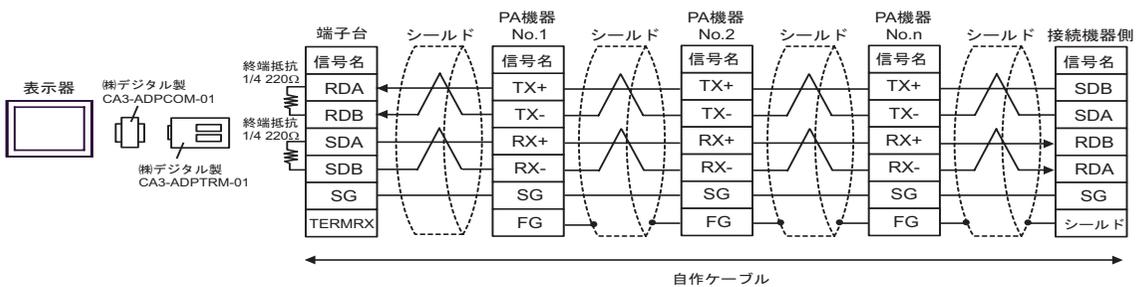
- 終端抵抗は両端の機器に取り付けてください。
- 表示器と接続機器側では A 極と B 極の呼び方が逆になっていますのでご注意ください。
- PA 機器に SG がある場合は、接続してください。
- 終端となる接続機器はパソコンリンクモジュールの最終抵抗スイッチを 4-WIRE に設定してください。
- 接続ケーブルとして日立電線製 CO-SPEU-SB(A)3P × 0.5SQ を推奨します。
- 総ケーブル長は 1000m です。
- パソコンリンクモジュールの号機 No. は 2 ~ 32 にしてください。
- 表示器に接続する PA 機器の号機 No. はすべて異なるように設定してください。同じ号機 No. の PA 機器が 2 台以上あると、エラーが発生します。
- 表示器 (m 台) と PA 機器 (n 台) の通信設定はすべて同じにしてください。

A) デジタル製 COM ポート変換アダプタ (CA3-ADPCOM-01) + デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) + 自作ケーブルを使用する場合

[1:1 接続時]



[1:n 接続時]

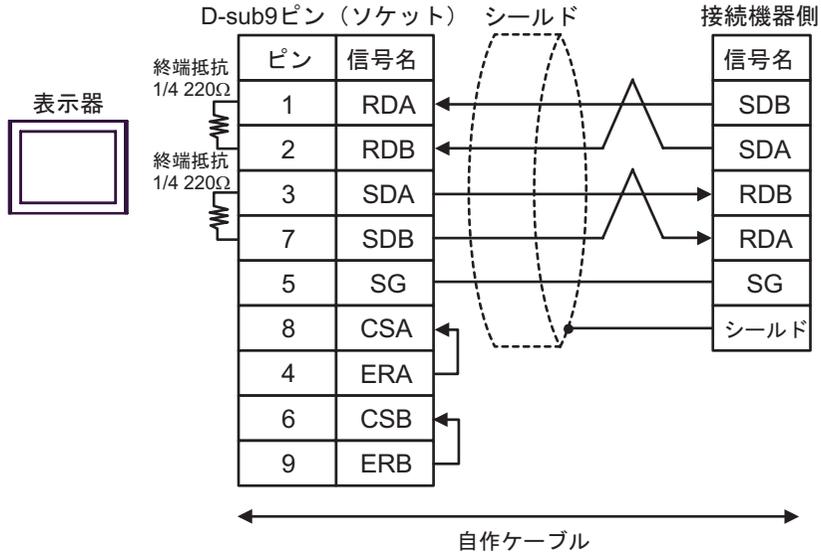


MEMO

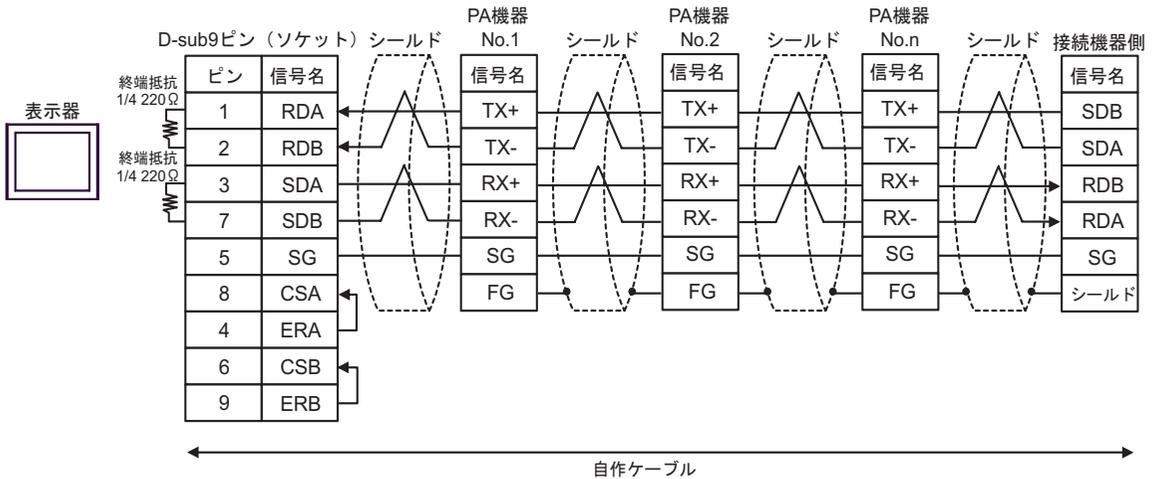
- PA 機器に SG がある場合は、接続してください。
- PA 機器に SG がない場合でも、表示器と接続機器の SG 接続が必要です。

B) 自作ケーブルを使用する場合

[1:1 接続時]



[1:n 接続時]

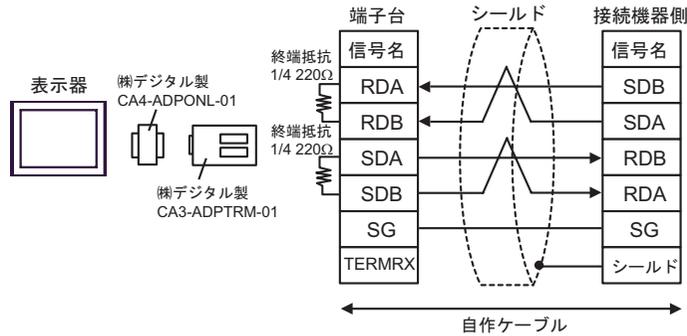


MEMO

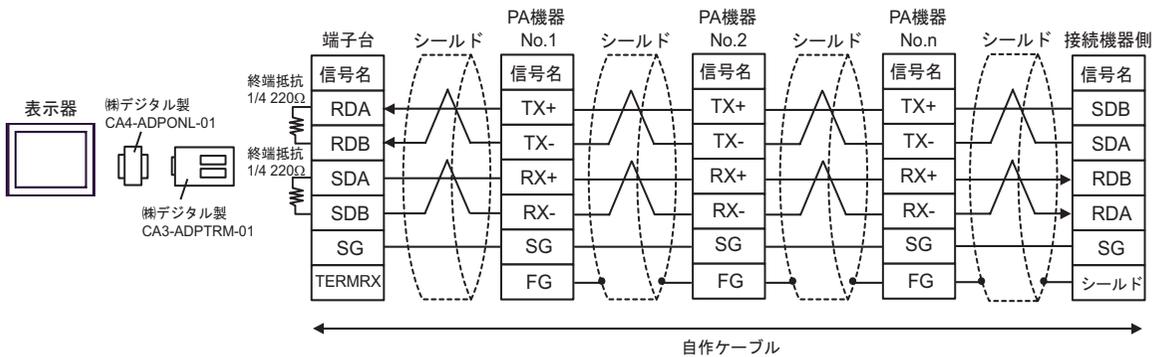
- PA 機器に SG がある場合は、接続してください。
- PA 機器に SG がない場合でも、表示器と接続機器の SG 接続が必要です。

C) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01) + デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) + 自作ケーブルを使用する場合

[1:1 接続時]



[1:n 接続時]

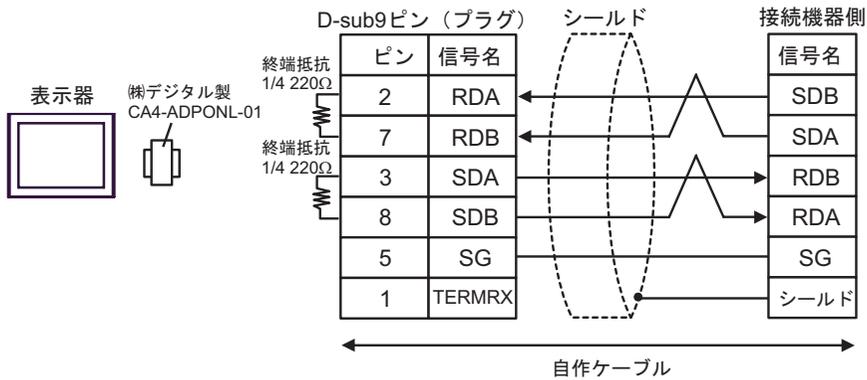


MEMO

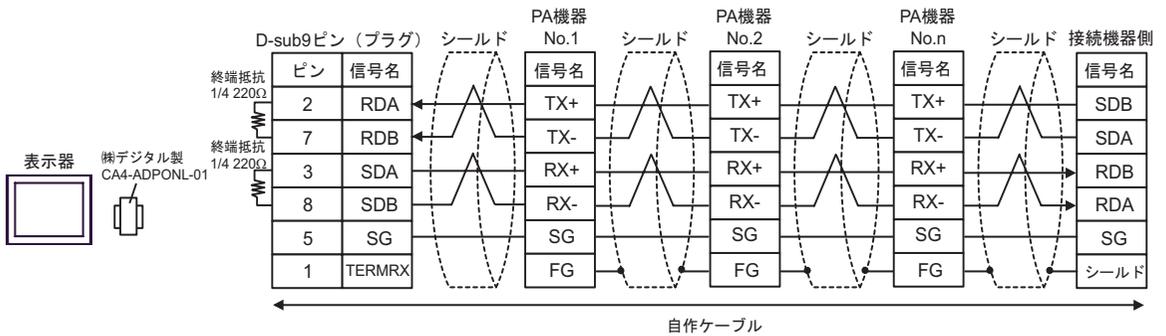
- PA 機器に SG がある場合は、接続してください。
- PA 機器に SG がない場合でも、表示器と接続機器の SG 接続が必要です。

D) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01) + 自作ケーブルを使用する場合

[1:1 接続時]



[1:n 接続時]

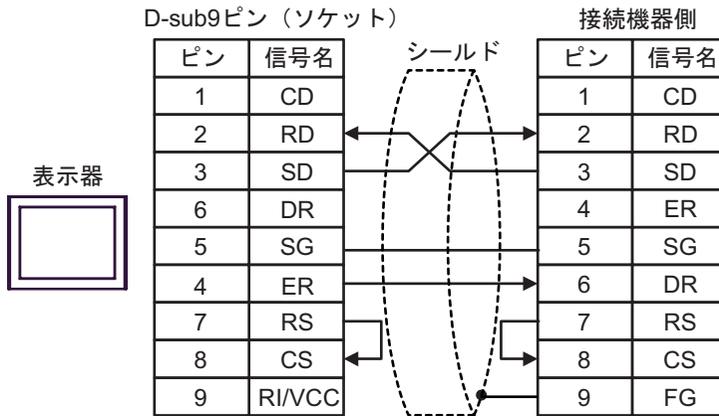


MEMO

- PA 機器に SG がある場合は、接続してください。
- PA 機器に SG がない場合でも、表示器と接続機器の SG 接続が必要です。

結線図 3

表示機 (接続ポート)	ケーブル	備考
GP (COM1)	自作ケーブル	ケーブル長は 15m 以内になしてください。



結線図 4

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP (COM1) ¹ AGP-3302B (COM2)	A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	—
	B	自作ケーブル	
GP (COM2) ¹	C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	
	D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	

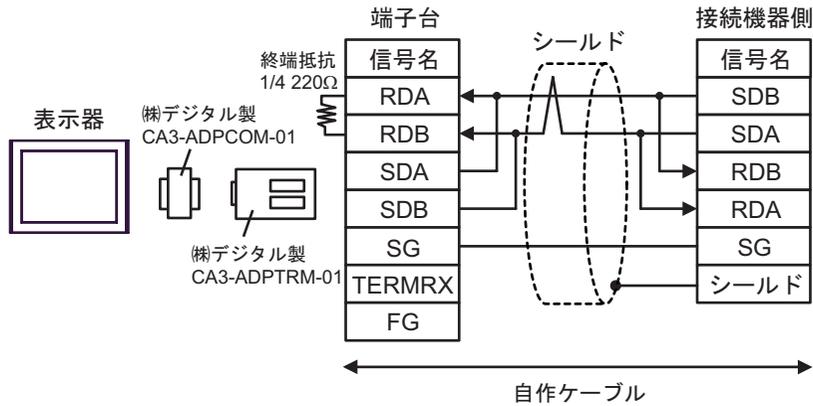
1 AGP-3002B 除く全 GP 機種

MEMO

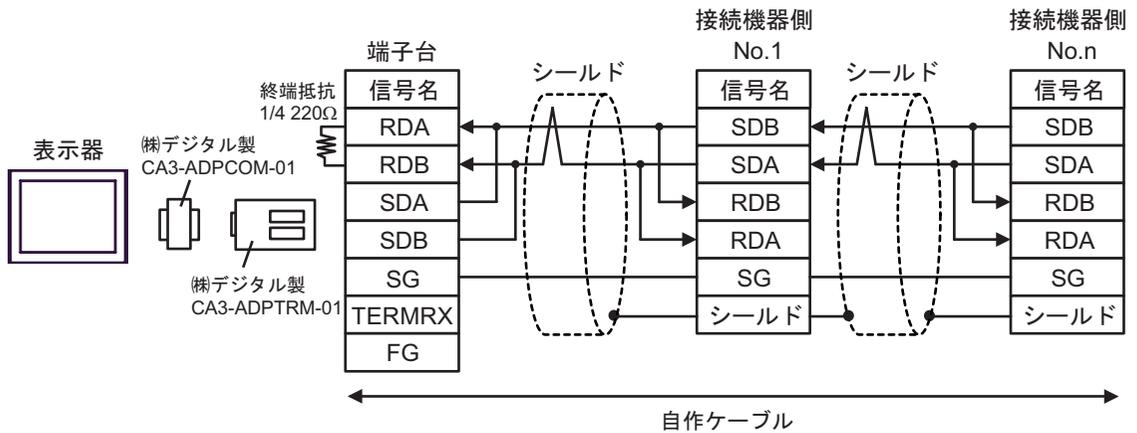
- 表示器と接続機器側では A 極と B 極の呼び方が逆になっていますのでご注意ください。
- PA 機器に SG がある場合は、接続してください。
- 終端となる接続機器はパソコンリンクモジュールの最終抵抗スイッチを 2-WIRE に設定してください。
- 接続ケーブルとして日立電線製 CO-SPEU-SB(A)3P × 0.5SQ を推奨します。
- 総ケーブル長は 1000m です。

A) デジタル製 COM ポート変換アダプタ (CA3-ADPCOM-01) + デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) + 自作ケーブルを使用する場合

[1:1 接続時]

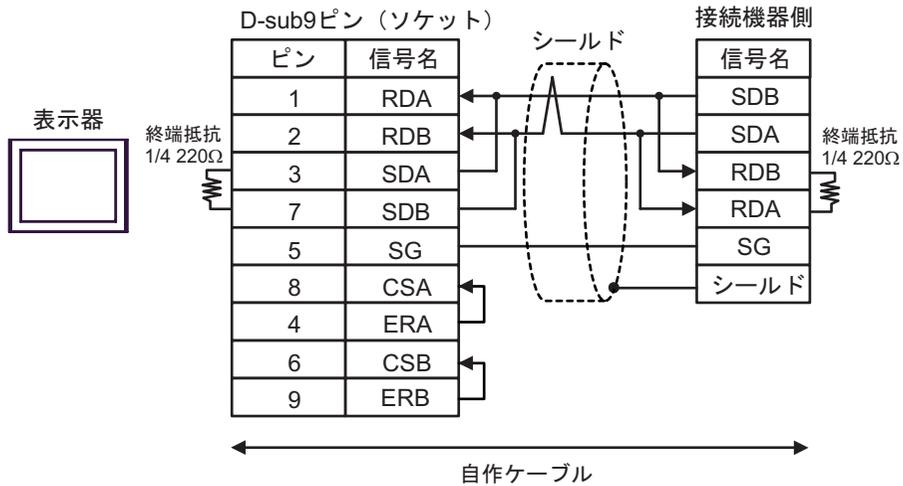


[1:n 接続時]

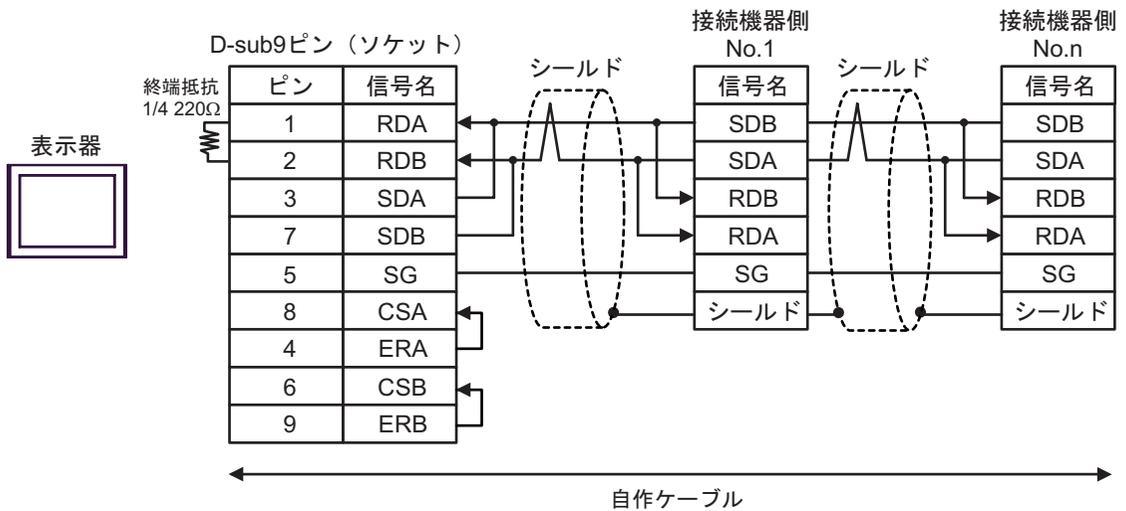


B) 自作ケーブルを使用する場合

[1:1 接続時]

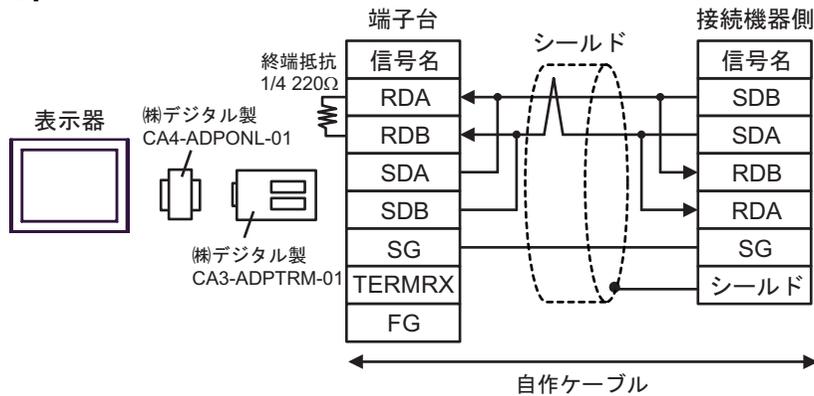


[1:n 接続時]

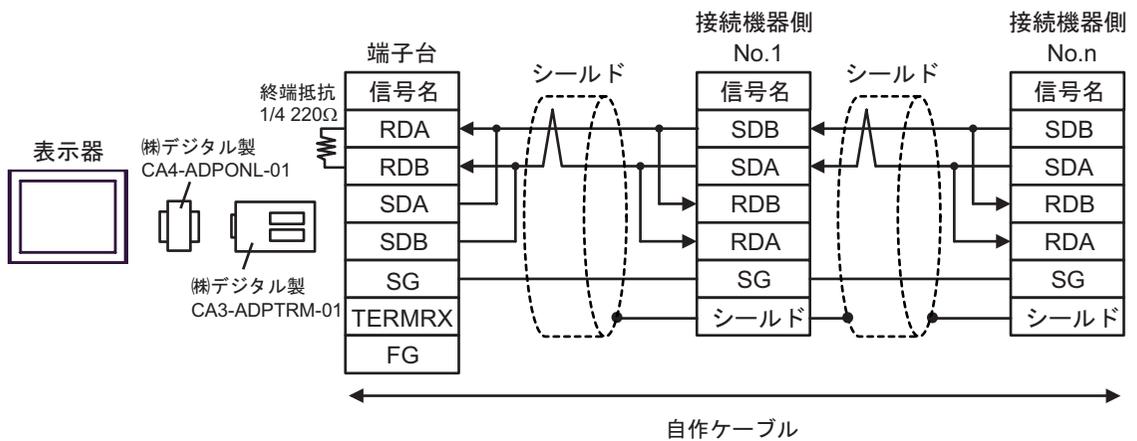


C) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01) + デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) + 自作ケーブルを使用する場合

[1:1 接続時]

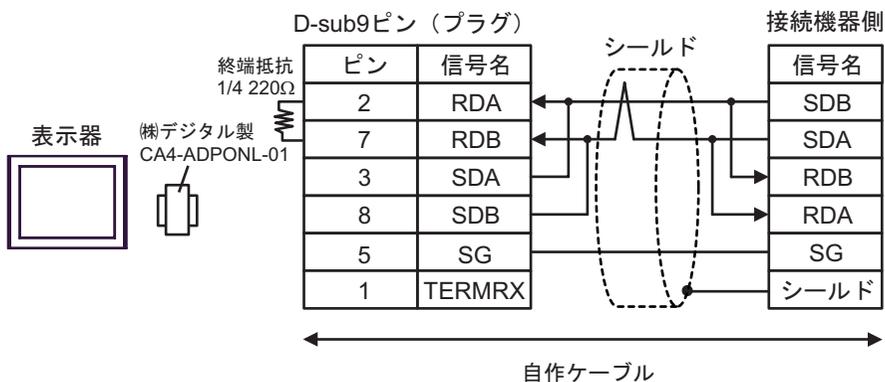


[1:n 接続時]

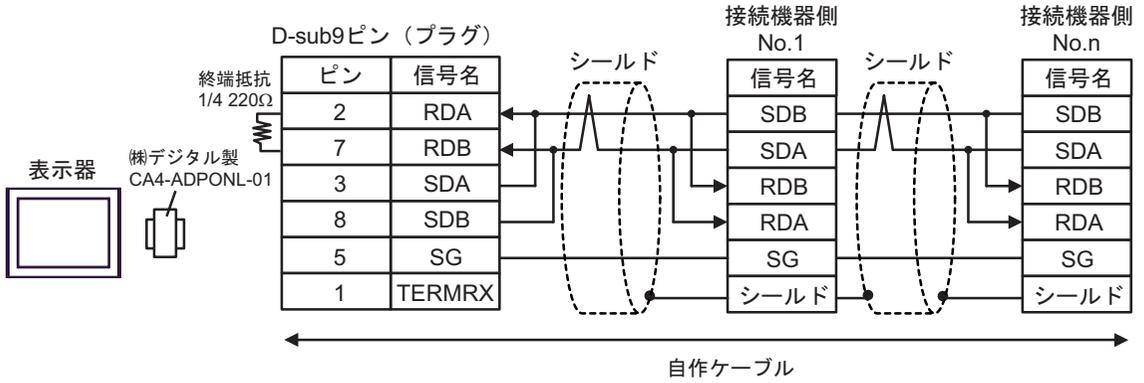


D) デジタル製オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01) + 自作ケーブルを使用する場合

[1:1 接続時]



[1:n 接続時]



7 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードは、データ表示器などのアドレスタイプで「デバイス&アドレス」を設定している場合に使用します。

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	1X	0x0080 ¹	(モジュールユニット番号 × 0x40) +((モジュールスロット番号 - 1) × 0x4)+((端子番号 - 1)/16) ⁵
	2X	0x0180 ²	
	3X	0x0280 ³	
	4X	0x0380 ⁴	
出力リレー	1Y	0x0081 ¹	(モジュールユニット番号 × 0x40) +((モジュールスロット番号 - 1) × 0x4)+((端子番号 - 1)/16) ⁵
	2Y	0x0181 ²	
	3Y	0x0281 ³	
	4Y	0x0381 ⁴	
内部リレー	1I	0x0082 ¹	(ワードアドレス - 1) ÷ 16 の値
	2I	0x0182 ²	
	3I	0x0282 ³	
	4I	0x0382 ⁴	
共通リレー	1E	0x0084 ¹	(ワードアドレス - 1) ÷ 16 の値
	2E	0x0184 ²	
	3E	0x0284 ³	
	4E	0x0384 ⁴	
特殊リレー	1M	0x0083 ¹	(ワードアドレス - 1) ÷ 16 の値
	2M	0x0183 ²	
	3M	0x0283 ³	
	4M	0x0383 ⁴	
リンクリレー	1L	0x0088 ¹	(リンク番号 × 0x10000)+((アドレス - 1)/16) ⁶
	2L	0x0188 ²	
	3L	0x0288 ³	
	4L	0x0388 ⁴	
タイマ (現在値)	1TP	0x0060 ¹	ワードアドレス - 1
	2TP	0x0160 ²	
	3TP	0x0260 ³	
	4TP	0x0360 ⁴	

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
タイマ (設定値)	1TS	0x0063 ¹	ワードアドレス - 1
	2TS	0x0163 ²	
	3TS	0x0263 ³	
	4TS	0x0363 ⁴	
カウンタ (現在値)	1CP	0x0061 ¹	ワードアドレス - 1
	2CP	0x0161 ²	
	3CP	0x0261 ³	
	4CP	0x0361 ⁴	
カウンタ (設定値)	1CS	0x0064 ¹	ワードアドレス - 1
	2CS	0x0164 ²	
	3CS	0x0264 ³	
	4CS	0x0364 ⁴	
データレジスタ	1D	0x0000 ¹	ワードアドレス - 1
	2D	0x0100 ²	
	3D	0x0200 ³	
	4D	0x0300 ⁴	
コモンレジスタ	1B	0x0004 ¹	ワードアドレス - 1
	2B	0x0104 ²	
	3B	0x0204 ³	
	4B	0x0304 ⁴	
共通レジスタ	1R	0x0003 ¹	ワードアドレス - 1
	2R	0x0103 ²	
	3R	0x0203 ³	
	4R	0x0303 ⁴	
特殊レジスタ	1Z	0x0001 ¹	ワードアドレス - 1
	2Z	0x0101 ²	
	3Z	0x0201 ³	
	4Z	0x0301 ⁴	
リンクレジスタ	1W	0x0002 ¹	(リンク番号 × 0x10000) + ((アドレス - 1) / 16) ⁶
	2W	0x0102 ²	
	3W	0x0202 ³	
	4W	0x0302 ⁴	

- 1 CPU 番号が 1 の場合
- 2 CPU 番号が 2 の場合
- 3 CPU 番号が 3 の場合
- 4 CPU 番号が 4 の場合
- 5 各名称については「6 使用可能デバイス 1」を参照
- 6 各名称については「6 使用可能デバイス 4」を参照

8 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号:機器名:エラーメッセージ(エラー発生箇所)」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

項目	内容
番号	エラー番号
機器名	エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
エラーメッセージ	発生したエラーに関するメッセージを表示します。
エラー発生箇所	<p>エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> 受信エラーコードは「10 進数 [16 進数]」のように表示されます。 IP アドレスは「IP アドレス (10 進数):MAC アドレス (16 進数)」のように表示されます。

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: 書込み要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード:2[02])」

MEMO • 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。